

応用数学

第1章：線形代数（固有値）

固有値_01

固有値、固有ベクトル

ある行列Aに関して、下記の式が成り立つとき、
この \vec{x} を行列Aに対する固有ベクトル、
 λ を行列Aに対する固有値という。（ λ はスカラー）

$$A\vec{x} = \lambda\vec{x}$$

固有値_02

固有値、固有ベクトルの具体例

$$\begin{pmatrix} 1 & 4 \\ 2 & 3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 5 \\ 5 \end{pmatrix} \quad (1)$$

$$= 5 \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} \quad (2)$$

このように、同じベクトルのスカラー倍で表現できるため、
固有値は $\lambda = 5$ 、固有ベクトル（のうちの一つ） $\vec{x} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ となる。

$\vec{x} = \begin{pmatrix} 2 \\ 2 \end{pmatrix}$ も固有ベクトルであり、一つであるとは限らない。

固有ベクトルは、比率を表していると捉える。

固有値_03

固有値、固有ベクトルの求め方

$$A\vec{x} = \lambda\vec{x}$$

$$(A - \lambda I)\vec{x} = \vec{0}$$

$\vec{x} \neq \vec{0}$ であるため、 $(A - \lambda I)$ の逆行列が存在してはいけない。
すなわち、

$$|A - \lambda I| = 0$$

でなければならない。

$A = \begin{pmatrix} 1 & 4 \\ 2 & 3 \end{pmatrix}$ の場合で考えると、

$$|A - \lambda I| = 0$$

$$\begin{vmatrix} 1 - \lambda & 4 \\ 2 & 3 - \lambda \end{vmatrix} = 0$$

$$(1 - \lambda)(3 - \lambda) - 4 \times 2 = 0$$

$$\lambda^2 - 4\lambda - 5 = 0$$

$$(\lambda - 5)(\lambda + 1) = 0$$

$$\lambda = 5, -1$$

固有値 $\lambda = 5$ の場合、

$$\begin{pmatrix} 1 & 4 \\ 2 & 3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} = 5 \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$$

$$\begin{cases} x_1 + 4x_2 = 5x_1 \\ 2x_1 + 3x_2 = 5x_2 \end{cases}$$

となるため、 $x_1 = x_2$

すなわち、 $\vec{x} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ の定数倍 となる。

$\lambda = -1$ の場合も同様に、

$$\begin{pmatrix} 1 & 4 \\ 2 & 3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} = -1 \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$$

$$\begin{cases} x_1 + 4x_2 = -x_1 \\ 2x_1 + 3x_2 = -x_2 \end{cases}$$

$$x_1 = -2x_2$$

すなわち、 $\vec{x} = \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \end{pmatrix}$ の定数倍 となる。